富士養鱒場だより

第257号
令和5年5月号

静岡県水産・海洋技術研究所富士養鱒場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311
E-mail suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp URL https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/fuji/

（目次）

令和４年のサケ科魚類・海面養殖の生産実態・魚病被害のアンケート調査結果
令和５年度業務紹介・人事異動・転入者紹介
４年ぶりの開催・第 34 回にじます祭
清水港寄港クルーズ船の観光ツアー再開
「静岡県富士養鱒場」の古いパンフレット

令和４年のサケ科魚類・海面養殖の生産実態・魚病被害のアンケート調査結果

静岡県内のサケ科魚類及び海産魚の養殖業者の方々にご協力いただいた令和４年の生産実態及び魚病被害のアンケート調査結果を取りまとめましたので、概要を報告します。

方　法

県内でサケ科魚類及び海産魚の養殖業を営む経営体を対象にアンケート票を配付し、魚種ごとの生産量と生産額、魚種別及び疾病別の魚病被害量と被害額を調査しました。本調査の対象期間は令和４年１月１日から令和４年 12 月 31 日までの１年間です。

結　果

１　サケ科魚類（表１）

(1)経営体数：延べ経営体数は 51 軒、実経営体数は 32 軒でした。

(2)生産量：生産量は 1,445 トンで、前年比では 111%となり、146 トン増加しました。魚種別に見ると、ニジマスで前年比 112%と増加した一方、アマゴで同 93%と減少しました。

(3)魚病被害状況：魚病被害量は 56.4 トンで、前年比では 94%となり、3.7 トン減少しました。魚種別に見ると、ニジマスで最も多く 54.8 トンとなり、生産量の４%を占めました。

魚種別の主な発生疾病は、ニジマスでミズカビ病、伝染性造血器壊死症（ＩＨＮ）及び細菌性冷水病で、アマゴ・イワナではせっそう病でした。

２　海産魚（表２）

(1)経営体数：延べ経営体数は 37 軒、実経営体数は 18 軒でした。

(2)生産量：生産量は 1,917 トンで、前年比では 91%となり、182 トン減少しました。魚種別に見ると、マダイで前年比 91%、シマアジで同 57%と減少しました。

(3)魚病被害状況：魚病被害量は 63.9 トンで、前年比では 59%となり、44.8 トン減少しました。魚種別に見ると、マアジで最も多く 36.9 トンとなり、生産量の 16.8%を占めたほか、シマアジでは 9.0 トンとなり同 34.0%を占めました。

魚種別の主な発生疾病は、マアジでビブリオ病及び連鎖球菌症、マダイでエドワジエラ症、ブリでノカルジア症、シマアジで連鎖球菌症及びビブリオ病でした。

マダイで R3 に被害が目立ったイリドウイルス病がほとんど報告されなかった一方で、シマアジではレンサ球菌症の被害が大きい年となりました。

これらの結果を基に、少しでも魚病被害を減

らすための取組を、養殖業者の皆様と進めていきます。なお、本アンケート結果の詳細は、静岡県水産・海洋技術研究所「2022 年度事業報告」に掲載します。（冨山皓介）

表１　サケ科魚類のアンケート調査結果

魚種	R4					（参考）R3		
	経営体数（軒）	生産量（トン）	魚病被害			経営体数（軒）	生産量（トン）	魚病被害量（トン）
			被害量（トン）	生産量に対する割合（%）	主な疾病			
ニジマス	20	1,372	54.8	4.0	ミズカビ病、IHN、細菌性冷水病	21	1,220	58.7
ギンザケ	1	5	0.0	0.0		1	4	0.0
アマゴ	19	39	1.3	3.2	せっそう病、細菌性鰓病	19	42	1.2
イワナ	6	10	0.3	2.9	せっそう病	6	10	0.2
その他	5	20	0.0	0.0		8	23	0.0
合計	51(32)※	1,445	56.4	3.9		51(33)※	1,299	60.1

※経営体数合計のカッコは実経営体数

表２　海産魚のアンケート調査結果

魚種	R4					（参考）R3		
	経営体数（軒）	生産量（トン）	魚病			経営体数（軒）	生産量（トン）	魚病被害量（トン）
			被害量（トン）	生産量に対する割合（%）	主な疾病			
マアジ	8	220	36.9	16.8	連鎖球菌症（αⅠ、Ⅲ）、ビブリオ病	8	222	21.0
マダイ	12	1,440	14.4	1.0	エドワジエラ症	12	1,578	76.0
ブリ	3	190	3.6	1.9	ノカルジア症	3	190	7.1
シマアジ	4	27	9.0	34.0	連鎖球菌症（αⅡ、Ⅲ）、ビブリオ病	3	46	4.6
海面その他	4	19	0.0	0.0		4	20	0.0
陸上ヒラメ	1	19	0.0	0.0		2	43	0.0
陸上その他	5	2	0.0	0.0		4	0	0.0
合計	37(18)※	1,917	63.9	3.3		37(18)※	2,099	108.7

※経営体数合計のカッコは実経営体数

令和5年度　業務紹介

職		氏名	主な担当業務
場長		阿久津哲也	富士養鱒場業務の総括、全国協議会
総務	主査	佐野雅道	予算・庶務、観覧業務、庁舎等の保守管理
研究科	上席研究員	中村永介	試験研究の企画調整、新品種開発研究
	研究員	瀧川智人	魚病研究
普及班	主査（普及指導員）	佐藤孝幸	普及指導の企画調整、広報 普及指導（地域水産業の振興）
	主任（普及指導員）	冨山皓介	普及指導（魚類防疫対策、内水面漁業、生産業務指導）
会計年度採用職員		植松久男	試験研究補助、飼育管理、場内管理
会計年度採用職員		花田康秀	試験研究補助、飼育管理、場内管理

人事異動

（令和５年４月１日付け）

（転出）	技師　池田卓摩	→	水産振興課　技師
（転入）	主任　冨山皓介	←	資源海洋科　研究員

転入者･自己紹介

冨山皓介

初めまして。この４月から富士養鱒場へ異動となりました冨山皓介（とみやまこうすけ）と申します。前任の池田から業務を引き継ぎ、普及指導員として魚類防疫関連の業務を担当いたします。

これまでは行政や、さば類の研究を行っており、魚病や養殖生産の現場に関しては未熟な部分も多いですが、精一杯皆様のサポートをいたしますので、よろしくお願いします。

現場で見かけた際はお気軽にお声がけください。

トピックス

４年ぶりの開催・第 34 回にじます祭

挨拶する富士養鱒漁協・平林組合長

令和５年３月５日、４年ぶりとなる「にじます祭」が富士山本宮浅間大社の神田川ふれあい広場で開催されました。

久々の開催となったため「富士宮市民のみなさんに忘れられていないか」と集客に不安がありましたが、当日はそんな不安も吹き飛んでしまうほど大勢の来場者がありました。

場内では富士宮市内の生産者や商店の方々の出店が大賑わいだった他、ニジマス大型魚の重量当てクイズや富士宮市高校会議所が創作した「にじます音頭」のお披露目、クイズラリーなどで盛り上がりました。また、富士宮市役所によるニジマスも入った「富士山ちゃんこ」の配布も行われて、食べて遊んで１日ニジマスを満喫できたイベントとなりました。

筆者は、にじます祭を終えると富士宮にも春が来たと実感します。来春も盛大に開催できることを期待します。　（佐藤孝幸）

第 34 回にじます祭の様子

清水港寄港クルーズ船の観光ツアー再開

令和５年度初日の令和５年４月３日、清水港に寄港したクルーズ船の乗客による観光ツアーの来場がありました。本誌 244 号にて紹介したツアーが、コロナ禍の落ち着きにより再開したものです。今回も NPO 法人猪之頭振興協議会が企画する富士宮市猪之頭地区の湧水をめぐるツアーにおいて、約 30 名のゲストが当場を訪問してくれました。

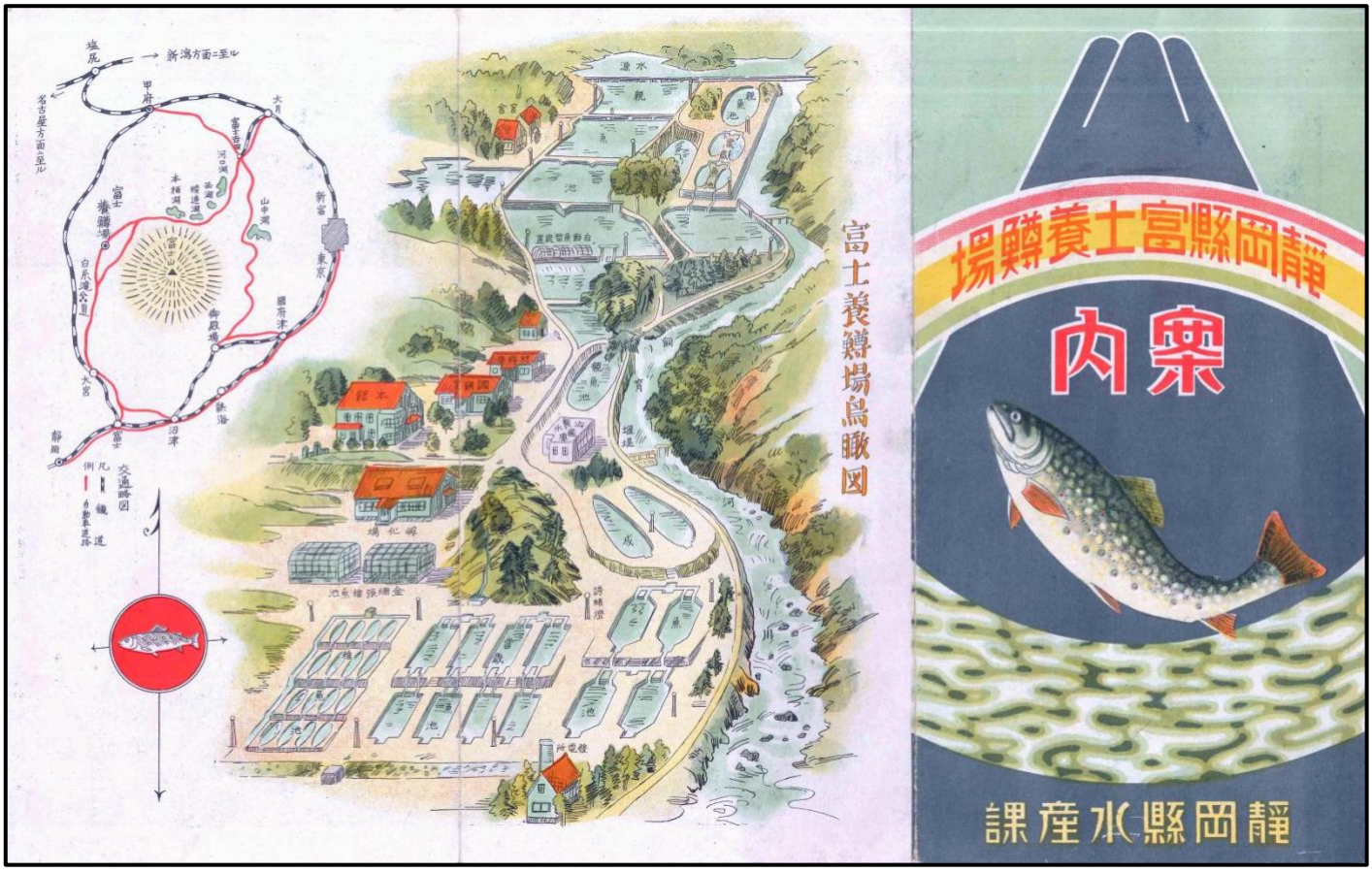
屋外池の見学や給餌体験といった内容としましたが、参加したゲストからは「ニジマスの採

卵の様子が見たい」「研究所の研究について知りたい」といったリクエストも聞かれ、単に観光に訪れるだけでなく、知識の探求欲を強く持っているものと感じ「おもてなし」の見直しを考えさせるものでした。

ところで、筆者は英語を含め外国語はからっきしダメなので、こうした海外のお客様とのコミュニケーションが課題です。別の海外からの視察団を受け入れた際、お客様がスマホで看板を翻訳しながら見学する様子が印象的で「その手があったか!!」と気付きました。スマホを使えば即時翻訳も手軽なこと、次回からさっそく活用してみたいと思います。　　（佐藤孝幸）

屋外池を見学するツアーの様子

「静岡県富士養鱒場」の古いパンフレット



（山内薫明氏・提供）

「ネットオークションで出品されていたものを入手した」と、かなり古い時代の当場のパンフレットを水産資源課の山内薫明氏から見せてもらう機会がありました。当場には、同様に前・野田場長が入手した古いパンフレットがありますが、それよりもさらに古い様子。

表紙には「課産水県岡静」の表記があります。当場は開設当初、県水産課直属でしたが、昭和

15 年に水産試験場所属に編入されましたので、本紙が昭和 15 年以前に作られたと想像できます。鳥瞰図は最下流に沈殿池が無いことを除けば、見慣れた現在の形で、ワシントン水車（自動魚止装置）も見えます。

裏面には解説文があり、当場の目的は『**本場は鱒族中最も優秀な虹鱒及河鱒の親魚養成によつて、年々一千萬粒を採卵し、之れを河川に放流して内水面の増殖を図ると共に、民間養鱒事業開発の原動力となつて種苗種卵の潤澤なる配給を行ふことを指名としているのであります。**』とあり、鮭鱒類の養殖よりも河川利用に重きが置かれていたことが感じられ、表紙の魚のイラストがニジマスではなくカワマスなことも、そのことを匂わせます。

興味を引くものでは、親魚へ人工餌料のほか天然餌料を供給するため『**昆虫類を誘集し、自然に池面に落下させる趣向を講じている**』という**誘蛾照明灯**が設置されていたことや、最下流に**発電所**を設けて電力の自給をしていたことで、昆虫餌料や水力発電は現代から見ても最先端のようにも感じます。

そして、解説文の最後は『**夏は避暑に冬は狩猟に四季夫々の赴きを呼ぶ仙境であります**』と締められており、当時の勤務は、この地で生活するだけでも大変だったのだろうと想像されます。現在は観光地となって交通事情も良く、当時を知る先輩方には「楽をしている」と怒られてしまいそうです。

当場は今年の秋で開設 90 年を迎えます。開設当時、渡来した新顔の魚ニジマスに新産業の希望を見出して興された本県養鱒業は、紆余曲折ありながらも現代まで続いています。この先開設 100 年を迎えられるよう養鱒業・河川漁業の支援に努力しろと顔知らぬ先輩方に背中を叩いてもらった、この古いパンフレットとはそんな出会いでした。　（佐藤孝幸）

富士養鱒場の降水量と湧水量

月	降水量（降水日数）：mm（日）		湧水量：万トン/日	
	今年	過去平均*	今年	過去平均*
2	70　(7)	104　(8)	2.63	3.04
3	277　(10)	212　(11)	2.38	3.36
4	251　(9)	225　(10)	4.25	4.15

＊　前年以前の 20 年間平均値

日　誌

令和５年２月	令和５年３月	令和５年４月
2-3 日　アユ資源研究部会報告会（東京） ６日　一般研究中間事後評価会（Web） 6-7 日　育て鱒タ一卵配布（市内） ７日　にじます祭実行委員会（市内） ７日　業務連絡会分場長会議（Web） 14 日　技術連絡協議会（焼津） 21 日　普及成果報告会（焼津） 24 日　紅富士麻酔選別作業（市内） 28 日　伊豆地域養鱒業者巡回	１日　漁協生産者会議（市内） ５日　にじます祭（市内） ６日　業務連絡会分場長会議（Web） ７日　普及課題設定協議会（Web） ９日　漁協出前授業支援（Web） 10 日　紅富士生産体制強化会議（市内） 14 日　にじます祭実行委員会（市内） 20 日　魚病対策委員会（静岡） 20 日　養殖生産物安全対策会議（静岡） 23 日　漁協愛知淡水漁協視察動向（愛知） 24 日　漁協組合員資格審査委員会（市内）	５日　輸入水産動物着地検査（県内） ７日　業務連絡会分場長会議（Web） 12 日　普及月例会（焼津） 18 日　内浦湾採泥調査（沼津） 21 日　岳水協合同会議（富士） 25 日　伊豆地域養鱒業者巡回 26 日　県かん水協会役員会（沼津） ＜視察見学対応＞ ３日　クルーズ船ツアー（35 名）